

2022年3月4日
全日本空道連盟理事長
国際空道連盟理事長代行
高橋 英明

世界空道選手権大会ならびに世界空道ジュニア選手権大会について（その3）

日本政府は、3月1日から出入国に関する規制を緩和し、外国人の入国を受け入れることを決定しました。ワクチンを接種済であることなどの条件付きではありますが、また国によって違いはありますが、入国時の隔離についても大きく緩和されていく方針です。

これらは、5月の世界大会開催に対して大きなプラスの要因でした。しかしながら、ロシアのウクライナへの侵攻により新たなマイナス要因が発生し、この先の見通しが極めて不透明な状況に至っています。現時点では、ウクライナからの出国、およびロシア人の日本への入国は禁止されています。

なお、2月25日および3月3日の時点で、ウクライナのサモーヒン支部長とは連絡が取れ、彼自身および他のウクライナ内の地域支部長の無事は確認されています。国同士は争いの中にありますが、ロシア支部とウクライナ支部は、KIF設立前からの古い仲間です。空道を愛する同じ仲間として、無事を祈りましょう。

これまで、たとえ参加国が少なくなることになっても、早期に世界大会という場を提供することを重視する方針でしたが、状況が複雑化する中で、慎重に判断する必要があると考え、3月1日に、世界大会の主催者である全日本空道連盟の正副理事長会議を緊急に開催して協議し、第6回世界大会および第3回ジュニア世界大会を来年の6月まで延期することを、KIFの理事会に諮りました。KIF理事会においても速やかに承認が得られ、延期が決定されたところです。なお、この全日本空道連盟正副理事長会議の議事録、および今後の国内の大会の予定は、別途、事務局から支部長・責任者に配布してもらいます。

たいへん残念ではありますが、開催を1年延期することで、少しでも多くの国から選手が参加できる状況になることを期待します。これまで世界大会を目標に努力を積み重ねてこられた選手および関係者の皆さんには大変申し訳ない結果となりますが、未曾有の状況下で予定されていた世界大会であり、混乱があったことをご容赦ください。

皆さんの健康と、ウクライナの仲間の無事を祈ります。

以上